

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
<p>2. 独立行政法人化について</p> <p>平成 21 年 4 月に、本市公立病院の運営は独立行政法人市民病院機構に移行し、これにより神戸市の病院事業会計は廃止された。本決算審査の対象から外れたのだが、先の外郭団体に関する特別委員会において、移行法人の 21 年度決算が 30 億円の黒字ということが明らかになった。慢性的に赤字体質であった公立病院が何故これほどの黒字を計上できたのか。聞くところによると、材料費の削減、事務の効率化はもとより、法人化したことで弾力的な職員採用が可能となったこと、DPC の導入や経営努力による収益の確保など、様々な要素が絡み合っただけでこのような好成績を残したということであるが、なにより一番の要因は職員にこれまで以上の緊張感が生まれたことである。</p> <p>法人化後に開設以来はじめて黒字を計上した西市民病院を何度か訪れたが、緊迫感が肌でひしひしと感じられ、職員の目つきにやる気が漲っていた記憶がある。公務員という枠組みから抜け出し、競争社会の中で勝ち抜いていくための努力、姿勢が、このすばらしい結果を生んだのではないか。</p> <p>同様に、平成19年度に法人化した神戸市外国語大学においても、自立的・効率的な大学運営を推進する中で、中期目標、中期計画以上の好成績を残している。これらのすばらしい前例から見て、今後、さらなる新たな行革をめざしてほしいと思うがどうか。</p>	<p>行政監察部 長</p>	<p>地方独立行政法人は、法律により、確実に実施されることが必要な事務事業であって、地方公共団体が自ら主体となって直接に実施する必要はないが、民間にゆだねた場合には必ずしも実施されないおそれがあるものについて、効率的かつ効果的に行わせることを目的として、地方公共団体が設立する団体であると定められている。</p> <p>独立行政法人化のメリットとしては、経営に関する広範な権限が理事長に与えられ、経営責任が明確化されるとともに、その理事長の責任の下で弾力的な経営が可能となること、中期目標や中期計画の策定により目標が明確化されること、評価委員会による評価が行われることなどで、目標や評価がきちんとなされることが大きな特色であると思われる。</p> <p>対象業務については、法律により、試験研究の実施、大学等の設置・管理、公営企業に相当する事業、社会福祉事業などが定められており、全国的にみると、公立大学が 53 法人、病院が 21 法人、研究機関が 7 法人、社会福祉施設関係が 1 法人となっている。</p> <p>本市では、行政経営方針の中で、積極的にこの制度を活用すると掲げており、外国語大学が平成 19 年 4 月に、市民病院が平成 21 年 4 月に、それぞれ法人に移行したところである。</p> <p>ご指摘のように、市民病院については、経営に対する意識を変え、経営改善に取り組んだことで経営状況が好転し、30 億円余りの黒字を計上している。外国語大学についても、会議通訳などのスペシャリストの育成をめざす国際コミュニケーションコースを設置するなど、非常に具体的な成果も現れてきたところである。</p> <p>今後とも行財政改革に取り組むにあたっては、民営化、民間委託、指定管理者の活</p>

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
		<p>用、P F I など、それぞれの業務にもっとも相応しい手法を取り入れることが肝要であると考えている。ご指摘の地方独立行政法人化については、本市では病院や外国語大学で一定の成果があがっているが、他の業務については他都市における導入状況も参考にしながら、引き続き検討してまいりたいと考えている。今後とも、官民の適切な役割分担を見極めながら、最適化を図っていきたい。</p>